



小学生、中学生に読んでもらいたい記事をおせています。読めない字があったら、おうちのの人に教えてもらってね。

### わたし みちか ぶん かざい 私たちの身近な文化財

### きゅうすず きけ じゅうたく こくびつ 旧鈴木家住宅穀櫃

この建物は、穀櫃といい、飢饉(作物の出来がととも悪く、食べ物が不足して何人も飢え死にする人が出るようなとき)に備えて、稗などの穀物を蓄えておくためのものでした。

これは古代中国の隋の国の文帝(今から約1400年前)によって行われた義倉・社倉にならったもので、日本でも律令時代(今から約1300年前)からあり、特に深刻な飢饉が発生するようになった江戸時代後期(今から約250年ほど前)頃から、当時日本を治めていた江戸幕府の命令で各地に建てられるようになりました。この穀櫃もその一つです。



〈写真1 江戸時代当時の外観再現状況〉



〈写真2 寄贈前の状況(昭和50年代)〉

もともとは北野中(野中新田与衛門組、いまの花小金井町)の秋山家が江戸時代の終わりごろに建てたもので、大正10年(1920年、今から約100年前)に大沼田新田(いまの大沼町)の鈴木家が秋山家から譲り受けて使用していました。

その後、昭和54年(1979年)鈴木家から小平市へ寄贈され、小川村を開いた小川九郎兵衛家にあった穀櫃の部材とともに解体され、保管されていましたが、平成の初めに小平ふるさと村の建設の際に敷地内に建て直され、その姿を今に伝えています(写真1)。平成4年には、小平市の有形文化財に指定されました。

市が寄贈を受けた昭和54年当時は、穀櫃の屋根はトタン板でした(写真2)。しかし、解体後によく調べたところ、屋根は

もともと茅葺き(スキの仲間)の植物)だったことが分かりました。そのため、ふるさと村に建て直されるときには、屋根を茅で葺きなおし、江戸時代当時の外観を再現しました。

穀櫃の大きさは、床の広さが幅3間(約5.4m、1間は約1.8m)、奥行1.5間(約2.7m)で、天井までは高さが1間(約1.8m)あります。天井からは外壁がなく、柱がむき出しの吹抜けとなっています。また、穀物を乾燥・保存するために、床を高くして、風を通す工夫がされています。

穀櫃は、食糧の貯蔵庫であり、人がひんぱんに出入りする建物ではありません。そのため、外壁に入口は設けず、天井に上蓋を設け、そこから穀物を入れて保存し、取り出しは壁板を外して取り出す構造になっているのが普通なのですが、この穀櫃は寄贈当時天井に上蓋がなく、外壁に1カ所入口として、引込み扉が設けられていました。建物の骨組み構造からは、この穀櫃ももとは上蓋があったことがうかがえ、外壁の引込み扉は建設後まもなく取り付けられたもののようです。扉の裏側には、墨で屋根の葺き替えに関することと明治12年(1880年)の年号が書かれており、扉は明治12年かそれ以前のものでしょうか。

この穀櫃は、周辺のもの比べてかなり大きいので、持ち主の一家用ではなく、上野中の村人のために建てられたと考えられます。その後明治維新により新たな政府が誕生すると、穀櫃は食糧の貯蔵庫としては使用されなくなり、譲り受けた鈴木家では物置として使用していました。

この穀櫃は、ふるさと村の他の旧神山家住宅や小川郵便局舎などの建物と比べると地味に見えますが、当時の激しく変化する世の中の様子を今に伝える貴重な建物なのです。

## 小平市 平櫛田中彫刻美術館 KODAIRA HIRAKUSHI DENCHU ART MUSEUM

### ◆冬の展覧会◆

### 企画展示 平櫛田中コレクションによる人間国宝展

工芸技術や音楽、演劇など形の無いもののうち、特に歴史的、芸術的に重要なものを無形文化財といいます。それら無形文化財となる技術を持つ人が「人間国宝」です。

平櫛田中は有名な陶芸家や金工家、人形師たちと交流があり、その中には人間国宝の作家もいました。彼らの作品を中心に田中のコレクションを紹介します。

とき 令和5年2月12日(日)まで



開館時間 午前10時から午後4時まで ※なるべく、午後3時30分までに入館してください。  
休館日 火曜日、年末年始(令和4年12月27日(火)から令和5年1月5日(木)まで)  
観覧料 一般…300円、小・中学生…150円 ※駐車場をご利用の方はご相談ください。  
問合せ 平櫛田中彫刻美術館 ☎042(341)0098

## 第48回 少年少女マラソン大会を開催しました

11月27日(日)に中央公園競技場および外周コースで小学校3年生から6年生の各学年、男女別にレースが行われました。

当日は、583人の参加者による熱戦が繰り広げられました。

	3年生	4年生	5年生	6年生
男子	1位 戸部 由志(一小)	松岡 洋仁(十小)	武川 雄太郎(学園東小)	井上 陽翔(八小)
	2位 丸尾 佑摩(六小)	岸 陽向(二小)	小林 和(六小)	花澤 貫太(十二小)
	3位 川西 柊太郎(六小)	高杉 幸聖(四小)	馬渡 彬(五小)	早川 統真(八小)
女子	1位 武川 藍子(学園東小)	美濃輪 奈々(六小)	田島 帆夏(三小)	岡野 陽和(十二小)
	2位 有川 雪菜(二小)	臧 佳純(十三小)	金沢 梓(花小金井小)	市川 美鈴(一小)
	3位 熊谷 俐来(三小)	田中 真衣(一小)	倉科 幸佳(十五小)	小谷 優子(八小)

※3年生・4年生は1,500メートル、5年生・6年生は2,100メートルで競われました。

※上位入賞者の成績は、小平市体育協会ホームページに掲載しています。(URL:https://kodaira-sa.org/syougaku-marathon/syougaku-marathon.html)

小平市体育協会 ホームページ



スマートフォン用



## 第43回 ふるさとの新聞 元旦号展

北は北海道、南は沖縄まで全国各地の1月1日発行の地方新聞を展示します。また、地方出版の郷土色豊かな図書も多数展示します。ふるさとの懐かしいイベントや風物詩など、新聞ならではの、郷愁がきかたえられる展示を是非ともご覧ください。

※新聞の展示は各新聞社から届き次第、順次展示します。

とき(令和5年)	ところ
1月7日(土)から1月12日(木)まで	中央図書館
1月14日(土)から1月18日(水)まで	上宿図書館
1月21日(土)から1月26日(木)まで	大沼図書館
1月28日(土)から2月2日(木)まで	小川西町図書館

問合せ 中央図書館 ☎042(345)1246

## 「第5回なかまちテラスティーンズ委員会大賞」が決定しました

なかまちテラスでは、中学生・高校生の読書活動推進を目的に、10代が薦める10代にぜひ読んでほしい本を「なかまちテラスティーンズ委員会大賞」として毎年決定しています。

今年は4つの候補作品の中から、フィクション部門「海を見た日」、ノンフィクション部門「JK、インドで常識ぶっ壊される」が大賞に決定しました。

候補作品も含め素晴らしい内容の本ばかりですので、ぜひ一度読んでみてください。

### 候補作品

「ぼくたちのスープ運動 小さな思いやりが世界を変える!」  
ベン・デイヴィス/作、渋谷 弘子/訳、Julia Christians/Illustrations copyright、角口 美絵/かき文字 評論社  
(委員の感想)子どもたちのアイデアが表現して大きくなっていく様子が、読んでいて共感できた。自分ができるとを何かやってみよう、一歩踏み出してみようと思った。



### フィクション部門大賞

#### 「海を見た日」

M.G.ヘネシー/作、杉田 七重/訳、鈴木出版  
(委員の感想)登場人物には障害があるが、その障害も、ある側面から見るとデメリットでも、違う側面から見るとメリットになる。この本を読んでから障がい者と接すると、そのメリットを強く感じる事が出来ると思う。



### ノンフィクション部門大賞

#### 「JK、インドで常識ぶっ壊される」

熊谷 はるか/著 河出書房新社  
(委員の感想)実際に行かないとわからないようなインドの文化にJKの目線を通して触れることが出来た。物事は必ずしもイメージ通りではないし、先入観やイメージの固定化はよくないと感じた。



#### 「スペシャルQとなぼくら」

如月 かずさ/著 講談社  
(委員の感想)Qについてよく知らない人も多いと思う。LGBTQに該当する人も多いと思うし、みんなが知るきっかけとしてこの作品を読んでほしい。  
10代にとって、恋・性自認については重要なテーマ。「自分は異質」と感じている人も、これを読んでQと気づく人がいるかもしれない。

